

(1) わくわくする京都の実現に向けた15の未来像

未来像① 住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる京都

地域包括ケアの理念を基盤に、多様な主体が地域や分野を越えてつながり、医療や介護サービスを提供する「京都地域支えの輪(仮称)」を推進し、支える人もやりがいを持って働き続けることができ、府民が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができる京都を実現します。

● 持続可能で質の高い医療・介護が受けられる体制の構築

(主な方策)

- ・ 地域医療機関の機能や役割分担を深化させる「医療あんしんネットワーク」を構築するため、重点地域を設け、大学との連携体制を強化するなど、地域医療構想調整会議における医療機関の役割分担の議論を促進します。
- ・ 広域救急搬送や地域内での搬送体制の充実に向けた検討を行うとともに、地域の医療関係者や医療関係団体と連携しながら、へき地等でのオンライン診療の活用を進めます。併せて、患者の通院手段の確保や広域の移動を伴う受診への支援などを検討します。
- ・ 人口減少や介護サービス需要の変化を見据え、将来にわたり必要な介護サービスを安定的に提供できるよう、介護事業者の経営基盤強化や事業者間の連携・協働を促進するとともに、介護・福祉分野における外国人材の受入れのため、諸外国との連携強化や、安心して働き地域社会の一員として活躍できる環境づくりなどを推進します。

● 誰もが地域社会の一員として互いに支え合い、生きがいをもって暮らすことができる社会の実現

(主な方策)

- ・ 高齢者をはじめとする地域住民が、地域とのつながりを持ちながら、生きがいや役割を持っていきいきと暮らし続けられるよう、多様な居場所や活動の場への参加を促進するとともに、高齢者が持つ知識や経験を、地域活動やボランティア活動などにつなげる「地域活動支援ネットワーク(仮称)」の取組を進めます。
- ・ 地域住民の誰もが気軽に参加できる「つながるひろば」を創出し、文化をはじめとする地域資源の活用などによる地域の魅力発信と併せて、多世代交流を促進します。

未来像② 災害や犯罪等からの安心・安全な京都

頻発する自然災害や新興感染症など府民生活を脅かす様々な事象に的確に対応するため、防災・減災対策や危機管理体制を強化するとともに、犯罪や交通事故から府民を守り、誰もが日々の暮らしの中で安心・安全を実感できる京都を実現します。

● トップレベルの危機管理体制と地域のつながりで命と暮らしを守り抜く体制の構築

(主な方策)

- ・ 災害時に自宅や地域で安心して過ごせるよう、耐震化・不燃化、食料や生活必需品の備蓄を促進することで、自宅や避難先となる施設を防災シェルターとする「京都まるごと『防災シェルター』化」に取り組み、府民一人ひとりが自分に合った避難方法を選択できる体制を構築します。
- ・ 日中も地域に居ながら活動されている方や消防団員など、災害時に実際に動ける方に、発災直後の避難所開設や、地域内での声掛けなどを行う「地域防災の守り人（仮称）」として活動いただき、孤立地域など受援が困難な地域でも命を守るための72時間に対応できる体制づくりに取り組みます。
- ・ SNS上で拡散する偽・誤情報から府民の安心と安全を守るため、関係機関と連携して迅速に事実確認・訂正情報を発信する体制の強化に取り組みます。

● 安心・安全が実感できる犯罪や事故の起こりにくい社会づくり

(主な方策)

- ・ AI等を活用した犯罪防御システムの高度化や、カメラ・ドローン等の科学技術の積極的な活用等、DXの推進により警察活動の充実・強化を図り、特殊詐欺や匿名・流動型犯罪グループによる犯罪行為等、府民に不安を与える犯罪等の根絶に向けた取組を推進します。
- ・ 通学路における事件・事故や犯罪実行者を募集するいわゆる「闇バイト」など、青少年が犯罪の被害者にも加害者にもならないよう、SNSやアプリ等を活用した防犯教育や危機回避能力を高める取組を推進します。

未来像③ 笑顔があふれる「子育て環境日本一・京都」

「子育て環境日本一・京都」の実現に向け、オール京都の推進体制の構築や全国的にも先進的な取組を進めてきました。これらを土台として、子どもや子育てに関わる主体が抱える課題を深掘りし、更に取組をバージョンアップすることにより、若者や子育て世代が希望を持って子どもを産み育てられ、子どもたちとその育ちを支える人たちの笑顔があふれる京都を実現します。

● 子育て世代が子どもとともにいきいきと輝き、若者に選ばれる環境の構築

(主な方策)

- ・ 子育て世代や若者をはじめとする府民との意見交換や、子育て環境日本一推進会議の参画団体とともに課題の洗い出しと深堀を行い、「子育てと働くことの両立」や「子どもが社会とつながり、生き抜く力を養う」などの新たな視点を取り入れた「京都府子育て環境日本一推進戦略」を策定します。
- ・ 「家庭での男性活躍」を進めるため、企業における男性の育児休業の取得率向上及び取得期間延伸の促進に向けた意識改革など、働きやすい職場環境づくりを支援するとともに、家事・育児に触れ合う機会を拡げ、家庭や地域などあらゆる場で、みんなで家事・育児を担うことへの機運醸成に取り組めます。
- ・ 毎月１９日を基準に、「きょうと・親子お出かけの日」を創設し、スタジアム等の府内公共施設の無料開放や親子利用による料金優遇などの実施、また、民間団体等と連携した親子向けイベントの開催等、親子連れで楽しめるコンテンツの創出を図るとともに、キッズフレンドリー施設の更なる拡充などの取組とあわせて、親子でわくわくしながら外出できる京都を目指した風土を醸成します。

未来像④ 地域や海外とつながり、夢を描ける京都

歴史を振り返れば、変化を恐れず挑戦し、次の時代をつくってきた中心には常に若者の力がありました。子どもや若者が地域や海外とつながり、多様な人々や文化との出会いを通じて自らの夢や志を描き、果敢にチャレンジできる環境を社会全体で支える京都を実現します。また、挑戦する人を地域全体で応援し、応援された人が次の挑戦者を支える側へと回ることによって、挑戦と応援が世代を越えて循環する地域社会をつくります。

● 子どもたちが社会との結びつきで志や夢にチャレンジできる環境の整備

(主な方策)

- ・ 新たな価値を創造する力をはぐくむため、発達段階に応じて、早い段階から、地域産業や伝統芸能、職人技など京都のほんまもんや実社会に触れることで自らの「好き」を発見し、知識と経験を積み重ねる機会を創出します。また、その「夢」や「やってみたい」という想いを社会課題と結び付け、子どもたちの発案により京都の未来をデザインし、実現につなげる取組を推進します。
- ・ グローバルな視野をもって社会で活躍できる人材の育成をめざし、産業界や大学、京都市と連携し、夢や志を持つ府内すべての高校生等を対象に、自ら課題解決に挑む海外探究留学の機会を提供するとともに、府立高校生を対象とした語学力向上に向けた海外留学支援を実施します。さらに、留学経験者や留学支援企業、大学等が継続的につながる「京都イノベティブ人材コミュニティ（仮称）」を創設します。
- ・ 学生をはじめとした若者が地域の魅力を、自ら見て、聞いて、考え、活動する機会を広げるため、大学生と自治会や企業等をつなぎ、祭りや地域活動等に継続的に参画できる「大学生地域つながりプログラム（仮称）」を創設します。
- ・ 地域や企業とのつながりを「ガクチカ」としてアプリ等で可視化する「京都学生チャレンジパスポート（仮称）」を整備し、企業とのマッチングによる定着や、末永く京都につながり続ける関係人口をはぐくみます。

未来像⑤ 誰もが生涯にわたって輝き続けられる京都

わくわくすることに性別や年齢などの制限はありません。多様な個性や価値が受け入れられる環境の中で、誰もが地域や社会とつながり、役割を見つけ、時にはリスクリングや学び直して自身をアップデートしながら、生涯にわたって挑戦し、活躍し続けられる京都を実現します。

● 性別、年齢、国籍等に関わらず多様な主体が役割や繋がりを持ち活躍できる環境づくり

(主な方策)

- ・ 京都の大学、企業、行政が連携し、先端研究と産業課題を結ぶ「京都産学公連携大学院構想（仮称）」を検討します。また、企業の資金、研究者、実証環境等を大学へ提供する契約学科の創設を促進し、企業課題を扱う共同研究やPBL、長期インターンシップを通じて博士人材を育成します。
- ・ 性別を問わず多様な働き方を推進するとともに、新たなビジネスにチャレンジする女性の起業を支援するため、起業を志す女性が身近に相談可能な「京都女性起業家応援団（仮称）」を産官学金により構築します。
- ・ 地域における女性の生きづらさの解消や更なる女性活躍に向け、女性同士の交流や新たなネットワークを促す「女性のオフ会」を府内各地で開催するほか、女性人材の育成や地域団体への女性参画に関する好事例の共有・情報発信などによる気運の醸成に取り組み、地域で活躍する女性を総合的に支援します。
- ・ 「就労困難者特化型ICT就労支援センター（仮称）」を設置し、ICTやXR等を活用しながら、障害のある方の就労を推進します。
- ・ 外国人材が地域で働き活躍できるよう、日常生活に必要となる日本語や生活上のルールやマナーに加え、京都や日本の文化・歴史等を学ぶ「京都式インテグレーション研修コース（仮称）」を提供し、外国人材やその家族の円滑な地域定着に向けた取組を実施します。
- ・ 人権教育・啓発の推進、相談体制の整備を図ることで、人権尊重の共生社会づくりを推進します。

● 誰もが学び直しなどを通じてチャレンジやイノベーションが循環する環境づくり

(主な方策)

- ・ 企業による人材育成を、働く人一人ひとりの意欲や成長ビジョンと企業の成長を高める人的資本への投資として捉え、大学や研究機関等と連携したリスクリングや、学んだ成果を新規事業、業務変革、社会課題の解決に生かす取組等を支援します。また、若手への裁量付与やキャリア形成支援、企業や業種の枠を越えた人材交流等を促進し、学びと挑戦の好循環を生み出します。

未来像⑥ 経済の好循環によって文化や伝統が受け継がれる京都

京都では、長年にわたる営みの積み重ねによって、文化芸術、生活文化、伝統工芸などの「京の和」が暮らしに息づき、独自の精神文化が育まれてきました。このような京都の精神性は、国内外の人々を魅了し、府民の心を支え、人と人をつなげる大切な「資産」です。その担い手とその価値を活かして活動する多様な主体をつなげる取組を始動し、経済の好循環を生み出すことによって、次世代へとつないでいく京都を実現します。

● 「『京の和（輪）』つなぎプロジェクト（仮称）」の推進

(主な方策)

- ・ 伝統産業の職人や文化芸術・生活文化の担い手と、京都企業や宿泊・飲食・小売・交通などの京都の魅力を活かして事業を行う企業などを結び付ける、「京都コモンズ・プラットフォーム（仮称）」を構築し、京都に関わる幅広い主体が精神性の伝承者となる仕組みを創出します。
- ・ 民藝運動発祥の地である京都から、京都と世界の工芸の魅力や価値をアートやデザインの視点で再評価し、生活の中の「美」を発信する「Kyoto YouMe Triennale」を開催します。
- ・ 地域住民が、歴史や茶道・華道、その他の生活文化、産業など、京都をより深く知り、学びを育むため、社寺や工房等で文化芸術の担い手に触れる「京都オープンコミュニティ（仮称）」を市町村とも連携して創出します。
- ・ 日本独自の「銭湯文化」等を育み、地域コミュニティの活性化や災害時の住民支援の機能を有する銭湯を将来にわたって守るため、事業承継のためのモデル事業の取組を進めます。

未来像⑦ 芸術やスポーツを通じて感動が生まれ心が躍る京都

自分の「好き」をきっかけとした芸術やスポーツとの出会いは、仲間や地域との絆を育み、新たな出会いや相互理解を広げるとともに、これらの分野で京都を背負い国内外で活躍する次世代を育みます。子ども・若者からお年寄りまで、誰もが芸術やスポーツに関わり、感動や楽しみが生まれ、心が躍る京都を実現します。

● 芸術やスポーツに親しみ、交流やつながり、生きがいを育む環境づくり

(主な方策)

- ・ 「Art Collaboration kyoto」を東京で開催されるイベント「アートウィーク東京」と連動させ、海外のアートフェアと連携することで、国内外からの来京を促し、京都から日本のアート市場を活性化させるとともに、京都の作家が国際的に評価され、継続的に京都で活動できる仕組みを構築します。また、大学等と連携し、国際的なアートイベントなどの企画・運営や資金調達などを担うマネジメント人材をはじめ、文化を支える人材を育てます。
- ・ 少子化が進む中でも、子どもたちがやりたいスポーツに主体的に取り組み、夢やあこがれを育めるよう、府内各地域においてプロスポーツチームやトップアスリートと連携した体験教室や交流事業を推進し、スポーツの裾野拡大を図るとともに、心揺さぶられる体験の提供を通じて子どもたちの挑戦意欲や可能性を引き出す機会を創出します。
- ・ 京都の若者が将来の目標を持てるよう、バレーボール等の新たなプロスポーツチームの創出や定着を支援するとともに、スポーツを通じた地域のにぎわいづくりや交流の促進を図ります。
- ・ ワールドマスタースゲームズ2027関西を契機とした、生涯スポーツ等への機運の高まりを継続・発展させ、年齢・性別・障害の有無に関わらず、全ての府民がスポーツに親しみ、交流できる環境の充実を図るなど、スポーツを通じた地域づくりを推進します。
- ・ 国民スポーツ大会3巡目の開催については、国において大会の在り方や開催方法等の見直しが進められていることを踏まえ、検討を進めます。

未来像⑧ 成長分野への投資が働く人々の活力を生み続ける京都

京都の中小企業は、高い専門性や技術力でものづくりや伝統産業を支え、大企業の成長にも寄与する競争力の源泉です。成長分野への投資を呼び込み、高付加価値化や生産性の向上を通じて経営基盤を強化することで、その挑戦を後押しするとともに、中小企業の強みと京都のアカデミアの叡智を結び付け、継続的に伴走支援を行うことにより、グローバルニッチトップが次々と生まれ続ける京都を実現します。

● 人材の確保・定着と事業承継による、安定的な経営環境の構築

(主な方策)

- ・ 産官学金など多様な主体の参画のもと「未来京都・人づくり推進機構（仮称）」を設立し、府内企業への人材確保・育成・定着や職場環境整備への支援などをオール京都で推進します。
- ・ 事業承継を機に成長する中小企業を創出するため、後継者が行う設備投資や新業態開発に対し、民間の金融機関が積極的に投融資する「スタートアップ型事業承継支援プログラム」を推進します。

● 京都企業の技術やブランドを活かした高付加価値化等の実現

(主な方策)

- ・ 農業、製造業、卸・小売業、サービス業等あらゆる産業の中小企業・小規模事業者のDX推進に向け、大企業、大学、AIベンチャー等と連携し、AI・IoT等を活用した生産性の向上や経営革新を支援するとともに、地場産業産地、地域産業群における、技術やノウハウ等の強みを生かした高付加価値化の取組を支援することで、地域の産業が持続できる仕組みづくりを行います。
- ・ 北部産業創造センターや丹後・知恵のものづくりパークを核として、技術の高度化に対応するための「ネットワーク型設計開発支援システム（CAE）」の活用等により、新産業の創出に向けたオープンイノベーションを促進し、専門人材の不足など北部地域の中小企業が持つ課題解決を図りながら試作開発の高速化や技術の高度化を進めます。

未来像⑨ イノベーションで世界をリードする産業創造都市・京都

京都には、多様性という言葉だけでは括れない強烈な個性や文化を持ち、規模ではなく専門分野の技術やサービスで世界一を誇る企業が数多く存在します。こうした京都産業の強みと伝統を活かし、府内各地に特色あるテーマを掲げて、企業・人材の集積や交流を促す産業創造拠点を整備してきました。これまでに築いてきた基盤を活かし、産業創造リーディングゾーンで生まれた成果を府域全体のみならず、世界へ波及させながら、新たな挑戦を次々と花開かせるとともに、国内外から投資や人材を呼び込み、世界に伍する産業創造都市・京都を実現します。

● K Y O T O 伝統こそが最先端プロジェクトの推進

(主な方策)

- ・ 「K y o - D e n s a n - B i z (伝統産業ビジネス支援拠点)」等が、匠の技術を生かし、異業種とのマッチングを通じた商品開発やブランディング、国内外での市場開拓、商談等ができる人材育成等を伴走支援します。
- ・ 京都のテキスタイルが、ファッションやインテリア業界等の国内外の様々なブランドにおいて活用され、経済的・産業的価値を生み出せるよう、西陣織・京友禅・丹後織物の3つの産地と連携し、中間流通を担う商社機能やトレーサビリティの確立、インターンシップの実施による人材確保、若手職人の育成等の取組を進め、生産体制の再構築や分業制の維持をめざします。

● Z E T K Y O T O プロジェクトの推進

(主な方策)

- ・ 脱炭素テクノロジー (Z E T : Z e r o E m i s s i o n T e c h n o l o g y) 関連スタートアップ企業と事業会社等のさらなる集積・交流の促進や、Z E T - v a l l e y における地域住民等を巻き込んだ取組の成果を生かし、最先端技術を活用した新事業の創出や社会実装を加速させるとともに、宮津エネルギー研究所跡地を核としたサステナブルパークを形成し、脱炭素社会の実現に向けた取組を進めます。

● メディア芸術産業の都プロジェクトの推進

(主な方策)

- ・ 京都に集積するメディアコンテンツ関連企業や教育機関などを繋ぐ「メディア芸術ナショナルセンター（仮称）」の関西館を関西文化学術研究都市に誘致するなど、世界中のクリエイターや研究者とともにクロスメディア産業を創造します。
- ・ 太秦をはじめとする映画関係企業と連携し、時代劇や映画制作を通じて培われてきた制作技術やノウハウを次世代へ継承するとともに、その知見にA I等の先端技術を掛け合わせ、映画・映像、ゲーム、マンガ、アニメなどの分野を横断して活躍できるクリエイター人材を育成します。

● A I × 半導体 × ものづくり産業プロジェクトの推進

(主な方策)

- ・ 京都が強みを持つパワー半導体や光半導体などの分野において、府内の半導体関連企業が半導体の製造・活用の観点で活躍できるよう、A I・半導体の目まぐるしい技術の進歩や需要の高まりなどの動向を見据えた戦略に基づき、産学公が交流し、中小企業の参入のきっかけづくりとなる場の運営・拡大などにより、国内外の研究者等との協業の促進などの取組を推進します。
- ・ 製造インフラ等のA I化に伴いサイバー上での安全確保の備えが重要となるため、サイバーセキュリティに対する意識の向上や人材育成など、中小企業が安全確保対策を展開するための環境整備を進めます。また、多様な地域の特性を生かし、フィジカルA I分野の成長にふさわしい研究開発と実証実験の場の構築に取り組み、A I・半導体関連分野に挑戦する企業をサポートします。
- ・ 大学のまち・京都の強みを生かして、A I・半導体人材の育成に取り組む関西の大学と連携し、若年期から半導体産業を担う人材を育成するとともに、府内の半導体関連企業の技術交流や海外の研究機関との共同研究プログラムを通じた交流等による企業のキャリア支援に取り組みます。

● スタートアップの都KYOTOプロジェクトの推進

(主な方策)

- ・ 国際スタートアップ・カンファレンス「I V S」や、世界最大級のショーケースイベント「S X S W」への出展等を通じた海外ネットワークの構築を促進するとともに世界と京都を結び、スタートアップ企業や大学、投資家等の多様な主体を呼び込むスタートアップコミュニティを創設し、交流と共創を通じて、スタートアップ企業の創出・成長を支える持続可能なエコシステムの形成を図ります。
- ・ 京都の大学・研究機関が有する知の集積を生かし、ディープテック分野での起業を後押しするため、「I V S」の開催等を起点に、海外インキュベーター等の長期的な成長を支える海外からの人材及び投資を呼び込むとともに、E I R（客員起業家）の活用等により、挑戦できる環境の形成を図ります。

● アート&テクノロジープロジェクトの推進

(主な方策)

- ・ アート&テクノロジー・ヴィレッジ京都（A T V K）を核として、アートとテクノロジーの融合により新産業の創出をめざします。また、異業種・異分野によるオープンイノベーションを推進し、新たなイノベーションを生み出します。

● 京都フードテックプロジェクトの推進

(主な方策)

- ・ 農林水産業のスマート化や気候変動への対応、新たな食品技術やバイオプロセス（発酵等）の開発など、京都ならではのフードテックの取組を推進するために府内の企業や大学をはじめ、E U諸国とも連携し、共同研究や学術交流を進めます。
- ・ 新たに開設する「京都プレミアム中食オープンイノベーションラボ（仮称）」において、企業や大学と連携し、機能性食品等の加工研究や未利用資源の活用に関する共同研究を推進するとともに、販売戦略に応じて、企画から試作、分析まで一気通貫で国内外での競争力を備えた付加価値の高い商品開発を支援します。

未来像⑩ 世界の知が集う文化学術研究拠点・京都

関西文化学術研究都市に、世界中から研究者、企業、投資家などが集い、分野を越えた交流からオープンイノベーションが生まれ続ける拠点を形成します。また、研究成果の都市への実装や、自動運転などを活用した移動環境の向上を進めるとともに、交通ネットワークの充実を図り、近未来を体感できる文化学術研究拠点を実現します。

● 国内外の連携と技術研究・実装・事業拡大の循環、交通ネットワークの充実

(主な方策)

- ・ 関西文化学術研究都市を核として、関西圏における東西軸を意識した広域連携を推進するとともに、研究・実証を支える制度的枠組みの新設及び活用などを通じて、「グレーター学研都市（仮称）」として広がりを持つエリアの形成に取り組みます。
- ・ 関西文化学術研究都市と連携を進める城陽市東部丘陵地を新たなクラスターとして位置づけ、関西文化学術研究都市等の研究機関や最先端産業の企業と連携し、自動走行や走行中無線給電、脱炭素テクノロジーなどの先端技術を社会実証・実装する近未来都市の形成を進めます。
- ・ 関西文化学術研究都市において構築された先端技術の社会実装モデルを、グレーターけいはんな広域連携プロジェクトとして相楽東部地域など他地域にも展開し、先端技術が実装された都市と田園が共存する地域をめざすとともに、京都府南部地域における人流の促進をはじめとする地域活性化につなげます。
- ・ 国内外から企業や研究者、支援機関、投資家等が関西文化学術研究都市に集う環境づくりを進めるとともに、産業技術総合研究所や公設試験研究機関等との連携のもと、課題解決から起業・資金調達支援までを担う組織体制の強化を図ります。

未来像⑪ 訪れる人と地域が交わり出会いが広がる京都

長い歴史の中で都として発展してきた京都には、国内外から人、もの、情報、文化が行き交い、豊かな交流が育まれてきました。こうした交流の蓄積を基盤に、広域周遊や夜型観光などを通じて新たな出会いを広げ、訪れる人も地域の人々も互いに交流の価値や魅力を実感できる京都を実現します。

● 観光産業の裾野を広げ、府域に新たな体験や価値を生み出す観光の創造

(主な方策)

- ・ 2025年日本国際博覧会（略称「大阪・関西万博」）を契機に構築した海外とのネットワークなどを活用しながら、より広域的なテーマ観光やストーリー性のある周遊観光を促進する「まるっと・じっくり関西プロジェクト」を京都市や近隣府県、関西広域連合、関西観光本部などと連携して推進します。
- ・ 豊かな自然と歴史が息づく特別史跡恭仁宮跡を広域周遊のハブと位置づけ、山城地域の文化財や景観、豊かな自然、食文化などの魅力を結び付けながら、多彩な観光ストーリーを紡ぎ、歴史・文化を体感できる「恭仁の都（くにのみやこ）回廊（仮称）」を創出することで、カルチャーツーリズム等による広域周遊を促進するとともに、遺跡の一部整備や発掘体験などの取組を通じて、文化財保護・学習・情報発信の拠点化を図るなど、文化資源活用を通じた産学官民連携の地域モデルの創出を進めます。
- ・ 社寺の夜間公開、伝統芸能、音楽、食、自然体験など、夜の過ごし方を府内各地で創出するとともに、安全・安心な受入環境などを整えることにより、年間を通じて楽しめる「京都の夜観光」を推進し、滞在時間の延長と宿泊、観光消費の拡大を図ります。

未来像⑫ 地域の食が誇りと豊かさをつなぐ京都

京都では、海や森など府内各地の産物が都を支え、食の文化を育んできました。その恵みは今も色あせず、地域ごとの魅力として輝き続けています。農林水産業の生産性と付加価値を高め、持続可能なものとして未来に受け継ぐことで、担い手が育ち、地域の誇りと豊かさが広がる京都を実現します。

● 農業・漁業・食品産業を核とした付加価値の高い農林水産業の構築

(主な方策)

- ・ 地域コミュニティの維持や産地維持に必要な人材を安定的に確保するため、子育て中の方やシニア世代などの地域住民をはじめ府内企業や大学、行政等の多様な人材がサポーターとして参画できる仕組みを構築し、農林水産業の繁忙期における仕事を支える体制づくりを進めます。また、営農の継続・発展が期待できる親元就農者等に対して、機械導入や設備整備を支援します。
- ・ 海洋センターを中心に多数の研究機関や企業が参画する「海洋データ活用プラットフォーム（仮称）」を新たに立ち上げ、産学公連携による革新的技術の開発や社会実装を行うことを通じて、漁業の持続性を高める取組や新たな海洋関連産業を創出する拠点として機能強化を進めます。
- ・ 定年後の就農や半農半Xの実践等を促すため、多様な働き方の提案や副業的に農林水産業を経営するための支援を強化するとともに、京都府生涯現役クリエイティブセンターと連携したリカレント教育の実施により技術習得を支援するほか、農林水産業の多様な担い手のモデルを発信することで、一人ひとりの希望に応じた働き方と、農林水産業の担い手確保、生産性向上を実現します。

● 景観や食文化を経済や交流につなげた農山漁村の魅力向上

(主な方策)

- ・ 生産者や料理人、大学・観光・文化関係者等が連携した生産過程のストーリー化や、土壌、水、気候、生態系に加え、地域固有の歴史や文化、生産者の技が農林水産物や食の個性を生み出す「テロワール」の視点による価値の向上により、担い手の所得向上、環境の維持・保全、住民の誇りにつながる持続可能な地域ブランドを育成します。
- ・ 京都の食文化や食材と最先端技術の融合により新たな需要を創出するとともに、府内農林水産物を活用した高付加価値型食品産業や、海洋データ研究成果を活用した環境関連産業の企業誘致を進め、「環境配慮型食品産業クラスター（仮称）」を形成し、農林水産業・食品産業のエコシステムを府内各地で展開します。

未来像⑬ 北部地域の多彩な魅力がつながり輝く京都

京都府北部地域は、日本海側の玄関口として古くから多様な文化が行き交い、歴史や自然、産業、食文化など豊かな資源が育まれてきました。人口減少が進む中でも安心して暮らせる環境が整い、多彩な魅力がつながり、住む人や訪れる人の交流から新たな価値やイノベーションが生まれる京都を実現します。

● 人口減少を乗り越え、挑戦と安心が循環する北部地域の推進

(主な方策)

- ・ 大学、金融機関、企業等と連携し、人材育成や技術開発、実証、起業、販路開拓などを支援するとともに、丹後天橋立ミュージアム等を核に、異業種交流や文化観光を展開するなど、北部を国内外の人材と企業が集まり、新しい価値を生み出す挑戦のフィールドへと進化させる「チャレンジステーションプロジェクト（仮称）」に取り組めます。
- ・ 古代から大陸との交流の窓口として栄えた北京都の歴史や和の源流となった文化などの地域コンテンツに加え、丹後ちりめん、地域の豊かな食、舟屋・天橋立等の観光資源などを掛け合わせた高付加価値な文化体験を満喫する「カルチャーツーリズムの聖地化プロジェクト（仮称）」を展開します。さらに、海の京都・森の京都の観光資源を活用して府北部地域の夜型観光を創出し、観光客等の夜間滞在を促すことで、稼ぐことのできる新たな観光圏を形成します。
- ・ 北部地域の企業が有する機械金属の加工技術等を生かした宇宙関連産業への参入に向けた取組や、丹後ちりめんの精練・加工技術に触れることが出来る機会の創出に取り組む「ものづくり産業深化プロジェクト（仮称）」を展開します。

未来像⑭ 人・モノ・情報が行き交い、活力があふれる京都

ネットワークは、府域すみずみまで人・モノ・情報を届ける基盤です。山陰近畿自動車道や新名神高速道路、京都舞鶴港などの広域ネットワークや地域の移動を支える地域公共交通等のインフラの整備や AI 時代に即した人への支援などにより、府域の均衡ある発展を図るとともに、府域と国内外がつながり、交流と活力が生まれる京都を実現します。

● 府域だけでなく国内外とも繋がる交通ネットワーク整備とリダンダンシーの確保

(主な方策)

- ・ 新名神高速道路の全線開通及び6車線化を促進するとともに、山陰近畿自動車道の早期全線開通に向け、京丹後大宮 I C ～（仮称）網野 I C間の整備及び（仮称）網野 I C ～（仮称）城崎温泉 I C間のルート確定を促進します。
- ・ 京都縦貫自動車道、京奈和自動車道、舞鶴若狭自動車道の暫定2車線区間の4車線化整備を促進します。
- ・ 取扱貨物量の増加や航路の拡充を見据えた舞鶴国際ふ頭における第2バースの整備とⅡ期整備を進めるとともに、大型クルーズ船の寄港に対応できる第2ふ頭の施設整備及び周辺緑地の再整備等に取り組みます。

● 人々の生活を支える地域公共交通の確保

(主な方策)

- ・ 今後の府域における交通政策の取組の方向性を示す「京都次世代モビリティ戦略」を策定し、国、府、市町村、事業者等と連携・協働を図るとともに、市町村等の地域公共交通計画の策定を支援し、人口減少や高齢化社会にあっても、誰もが気軽に移動できる地域社会を推進します。
- ・ 交通空白地の解消に向け、市町村やNPO等が運行する公共ライドシェア等の移動手段の導入に加え、複数の市町村や交通事業者の共同化・協業化等による取組、地域輸送資源の活用、地域交通のDX化を促進することにより、地域交通の「リ・デザイン」を各地で展開し、持続可能な地域交通の実現を図ります。

● AI時代にふさわしい誰もが安心してデジタル技術の恩恵を享受できる環境づくり

(主な方策)

- ・ 官民ともに不足するデジタル人材の育成・確保、地域への定着に向けて、人とAIとの共創力や、Web3.0関連技術の活用力向上に資する実践学習等により、デジタル社会に即した人への支援と関係人口の創出に取り組みます。

未来像⑮ 府市協調を更に深化させ府全域が発展する京都

40 年以上にわたって築き上げてきた京都府と京都市の協調関係を、府市トップミーティングを契機に更に深化させています。府市協調により行政課題を乗り越え、新たな施策が力強く進み、こうした成果が府内全ての市町村に広がることで、地域社会が更なる発展を遂げる京都を実現します。

● 府市協調を京都全体の成長エンジンとし、府域へ効果が広がる京都の実現

(主な方策)

- ・ 国内外の著名な研究者、文化人、芸術家、起業家等を中長期にわたり京都へ招へいする「KYOTOレジデンス拠点（仮称）」を京都市や経済界と連携して整備します。滞在・制作・研究環境に加え、大学、企業、文化機関、職人、学生等との共同研究や創作、講義、地域プロジェクトへの参画をオール京都で一体的に支援することで、京都での暮らしと交流から生まれた知見や作品を世界へ発信し、多彩な人材との継続的な関係と新たな研究、産業、文化を創出します。
- ・ 京都市が推進する文化ゾーンの更なる発展に向け、北山エリアの京都コンサートホール大規模改修を契機とした文化・交流拠点化、駅東部の京都市立芸術大学や京都駅南エリアに集積する文化芸術拠点、さらには駅西側の京都市中央市場や京都水族館、鉄道博物館などと連携した京都駅周辺の活性化をまちづくり、都市計画の観点から支援し、鴨川の魅力を活かしたプロジェクトを発展させます。
- ・ 府と京都市の職員を中心に、大学や企業が参加する「京都府市協働政策ラボ（仮称）」を開催し、文化経験・観光消費の地域還元、学生の府内定着等の共通課題について検討を行い、京都府・京都市の施策に反映するとともに、府内市町村が活用できる政策モデルとして横展開する仕組みを構築します。